

# WFPとのパートナーシップで実現したものの

10月9日、イタリアのローマに本部を置く世界食糧計画(WFP)にノーベル平和賞が授与されることが発表されました。

WFPはNGOを「きめこまやかな支援を行う上で欠かすことのできないパートナー」と位置づけ、世界80カ国の活動は1000を超えるNGOと協働しています。ミャンマーで進むWFP事業におけるオイスカとのパートナーシップは、SDGsのゴール17で目指す「持続可能な開発のためのグローバルなパートナーシップの活性化」にも合致した取り組みです。



## WFPの役割

WFPは、オイスカの創立と同じ1961年に、「飢餓のない世界」を目指して設立された国連機関です。主に紛争や自然災害などの緊急時に、必要としている地域に食料を届けるほか、飢餓と貧困の連鎖を断ち切るために、地域社会や教育機関と連携し、栄養状態の改善や生計向上につながる取り組みを行っています。その対象となっているのは約80カ国、1億人(1年あたり)に上ります。

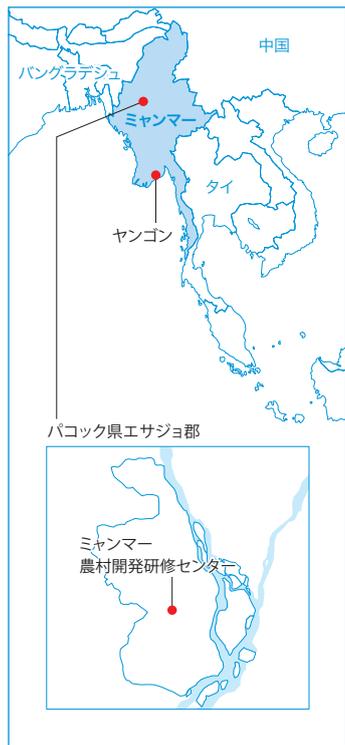
## WFPとオイスカとの連携

オイスカが、WFPから貧困削減事業の連携パートナー※の一

つとして、事業参画への提案を受けたのは、2005年のこと。開発から取り残されていたミャンマーの中央乾燥地域における脆弱な社会インフラや貧困、食料不足の解消を目指し、パコック県エサジョ郡を含む対象地域での事業を新たにスタートするWFPにとって、97年から同郡に研修センターを構えて農業開発分野の実績を上げていたオイ

スカは、連携パートナーとして最適といえました。オイスカの現地政府カウンターパートである農業灌漑省(当時)や地元行政などからの評価にも後押しされて、05年に連携パートナーとなり、現在にいたるまで、主にエサジョ郡内を中心に、数多くのWFP事業を実施してきました。

スカには、現場で汗をかき、地域住民を率いていく人材は数多く育っていましたが、連携パートナーに求められる、対象地のニーズ分析に始まり、申請書作成、インフラ整備、事業のモニタリングや評価といった業務を国連基準に則り、全て英語で実施する能力を持つ者はいませんでした。



膨大な国連基準の書類作成などの事業実施全般に関わる人材を育てるため、WFPの担当者とは、研修センターの近くに泊まり込み、提出書類をスタッフと一緒に作成しながら、実務研修ともいえる指導を行い、業務の「いろは」を指導、スタッフも懸命にその吸収に努めました。WFPによるこの一連の指導に

## 主なWFP事業

- **FFW** (Food for Work) / **CFA** (Cash for Asset)  
道路の改修やため池建設といったインフラ整備事業に住民が参画し、米などの食料やその購入に充てる資金を支援
- **FFE** (Food for Education) / **School feeding**  
学校給食など子どもたちの栄養状態が改善され、学ぶ意欲を向上させる取り組み
- **FFT** (Food for Training)  
農業など生計支援につながる研修や環境保全に関する研修などの参加者に米などの食料を配布

### オイスカの実績

**104,075** 人

各種事業における直接受益者数の延べ人数  
(2005~2019年)

約 **520,000** 人

各種事業における間接受益者を含めた延べ人数  
(2005~2019年)

### FFW/CFA

〈道路改修〉

**124.64** km

延べ53の村で5,008人が参加して改修した道路の長さ

〈飲料用ため池、農業灌漑用ミニダム改修〉

**51** カ所

延べ5,171人の住民が参画して改修した数、  
また農業用灌漑11カ所32.69kmも改修

### FFE/School feeding

〈学校給食〉

**51,288** 人

延べ538校で給食支援を受けた児童・生徒の数

### FFT

〈農業研修〉

**58** カ村

農業指導を実施した村の数。延べ2,229人が参加対象。  
また環境保全など4種の研修を延べ4,007人に実施

## オイスカの役割

よって、スタッフの能力強化がなされ、これが、その後の同郡でのマイクロファイナンス事業の展開やNGO連携無償資金協力を活用した大規模プロジェクトといった各種活動を進めていく上での大きな財産になっています。

※WFPが行う現地のインフラ整備や学校給食支援の実施などを協力して行うNGOなどを指すもので、Cooperating Partnerと呼ばれている

05年以前のオイスカは、農業開発分野での実績はあったものの、学校建設や地域インフラ整備といった地域開発事業は、日本からの資金で限定的に実施していただけでした。しかし、オイスカがWFPの連携パートナーとして長きにわたり活動を継

続できたのは、ドナーであるWFPが求める能力を身につけ、現地のニーズに沿った活動を提供し続けることができたからといえます。パコック県内でオイスカと同時期に連携パートナーとなったNGOの大半はすでに撤退、オイスカがそうした団体に代わり、近隣の郡での活動に取り組むこともあります。WFPからの期待に答え続けてきたことで、安心して事業を任せられるパートナーの地位を獲得したといえます。

するほかのNGO団体のスタッフもあつた。オイスカには、自前で育てたスタッフがいて、彼らが事業の対象地域において献身的な姿勢で地元住民と関わる調整力、適切なニーズの組み上げと事業の実施能力、そしてチーム力を持っていることが事業を成功に導いた要因だと思う」と話すと同時に、エサジョ郡の研修センターを拠点にし、そこにスタッフを集約させて活動を継続してきたことで、地域との強固な信頼関係を築くことになつた指摘。また、「オイスカの取り組みは、元々ミャンマー人の大半がもつ奉仕の精神に合致しており、その上で多くの日本人も指導員やボランティア



WFPミャンマー事務所のスティーブン・アンダーソン所長によるオイスカの現場視察

として共に汗を流してくれたことで、自国の貧困地域の課題を解決するという使命感がスタッフの中に醸成された」とも述べています。

今後も引き続き、WFPとの連携を通じ、支援が必要な人々の笑顔を取り戻す活動を続けていきます。

## 現地からの声



オイスカWFP担当  
ニー・ニー・ソー

WFPの業務を開始する時、最初はとても心配でした。これまで対象地域で多くの仕事をしてきましたが、国連との仕事は初めてだったからです。ただ、WFPのスタッフからの指導や協力もあり、徐々に業務を覚え、慣れていきました。オイスカがWFPと実施してきたさまざまな事業の成果により、対象地域の村々には多くの改善が見られるようになりました。これも、オイスカのスタッフの村の発展を一生懸命に考え、何度も村に足を運び、村人と共に事業を実施してきたからだと思います。オイスカ、WFP、村が一つのチームとなり、とてもいい仕事が出来たと思っています。今では事業計画から運営まで任せられるオイスカチームのスタッフは、私の誇りです。

### WFPミャンマー事務所より

オイスカは、長年にわたりWFPミャンマーにとって大変重要な連携パートナーであり、技術面、オペレーション(運営)面において信頼できるスタッフが揃っており、プログラムの質についても高く評価しています。

### WFPのスクールガーデン事業受益者より (エサジョ郡ミーコン村)

オイスカのスクールガーデン事業では、生徒たちだけでなく、私たちのような事業への参加者も恩恵を受けることができます。スクールガーデン運営により収入機会を得るだけでなく、参加を通じ、農業技術や栄養に関する知識も得られます。何よりも、実施過程で地域の活性化および団結力強化につながったことを大変嬉しく感じています。